

尾木直樹教授をご存知だろうか。あの水曜日の大人気番組、「ホンマでっか TV」でお馴染み、教育評論家の、尾木ママのことである。なんでそんなことを聞くのかって？そう、自分たちの班は企業訪問で実際に本人に会ってきたのだ。まあ、この作文を書いている時点で分かるだろうけど。尾木教授は、法政大学の教授である。テレビ番組に出演しているイメージが強くて、どこの大学なの？っていう人は多いと思う。実際自分もそうだった。ちなみに、いくら法政大学の教授といえど、法政大学に入れば絶対会えるわけではないらしい。実際見たことしかない、っていう大学生もいた。そう考えると、今回会えたのってすごいことである。流石二高、半端ない。

そんなことは置いといて、自分は文系で教育学部志望だ。それで、今回お話を聞きたいと思ってアポをとった。今の時点では、一応夢は教師。理由としては、公務員になることによって安定した収入を得て退職金をもらって楽しい老後を送りたいからだ。...こんなこと言ったら二高を追い出されるかも知れないな...自粛。ほんとうの理由は、ただ単純に教えることが好きだからだ。自分の知識を教えるって楽しいことだなあと思うのだ。親や祖父母が先生だということもあり、他人よりも教育の職に多少詳しいというのも理由の一つではある。だが、やはり自分が好きな職に就かなきゃやっていけないだろうと思う。とくに自分のようなすぐ諦めちゃう人間なんかとくにそう。

ここからは、尾木教授に話していただいた内容について記していこうと思う。テーマとしては、日本の教育は遅れている、というものであった。日本は恵まれている国である。だから、教育も進んでいるとイメージしている人も多いのではないだろうか。外国のほとんどは、簡単に言えば、「分かるまで教える教育」である。例えば、小学校でも留年というものがある。そう、小学生でさえも内容を完璧に理解しなければ留年なのだ。日本のように、適当にサボっていても中学校卒業までは進学できる日本の教育方針とは大いに違うのである。外国人は別に歳が違う人が同級生でもあまり気にしない。それに比べて日本は、歳を執拗に気にし、留年にいいイメージも持つ人は少ないと思う。中には留学になって精神的におかしくなる人もいるらしい。この現状を考えれば、日本の教育が遅れているというのも、納得がいくのではなかろうか。この現状を少しでも変えないといけないと教授は話す。そして、子供たちの意識を変えなければならないと。そう簡単には変わるものではないだろう。だから、自分たちの世代が少しづつでも変えていかなければならないのだ。さきほど老後の安定を考えていた奴がこんなまともなことを言うなんて...。これは全米が泣くレベルである。

今回教授に会って、30分ぐらいという短い間ではあったが、多くのことを知り、大きな刺激を受けた。テンプレのような感想にはなるけれど、この経験を生かして、将来についてさらに真剣に考えていければ、企業見学の目的は達成。ちなみに、教授は69歳。今年で定年退職されるらしい。つまり今回会えたのは超貴重なのだ。協力していただいた法政大学

の方々、そして尾木教授、本当にありがとうございました。

さて...前半の作文では法政大学に企業見学に行き、尾木教授に会ったことを書いたのだが。後半では、初日の東大生のOB、OCとの懇談会、そして2日目の東京大学見学について書いていこうと思う。中学校のときは、東京大学なんて無縁の存在だろうなあと考えていたが、こうも関わることになるとは思わなかった。流石二高(2回目)。だがやはり日本の大学生、言うことが一味違う(色んな意味で)。

まず懇談会。これは、1日目の夜、ホテルで美味しい夕食後に行われた。内容は、実際に現役東大生から、大学の様子や、経験を聞くというもの。色々な学科の方からお話を聞いた。どれもとてもためになる話であったが、1番印象に残ったのは、なんと高校時代に理転し、農学部に入ったという方である。そう、あのほとんど不可能と言われている理転を、しかも二高でやってのけたという超人。そんな方が話していたのは、勉強はやはり自分の方法でやるべきだということ。学校の授業、課題に従ってやるよりも、自分で勉強内容を見つけることが大事だと言う。実際に、その方自身、何教科かは捨て、得意な教科で高い点を取り、現役で受かったとのこと。なるほど、そんなやり方もあるのだと学んだ。さて、じゃあ自分も捨てるべき苦手教科を挙げてみようかな...数学、英語、古典、生物、物理、etc...ダメだこれ。この作戦では聞しか見ない気がするので、もう一つ教えて頂いた秘技(授業中に自分の勉強をする)を活用させていただこう...。OB、OCの方々、ありがとうございました。

2日目...自分は赤門の前に立っていた。ほんとに来ちゃったよ、東大。やはり圧倒的存在感である。まず建物から漂うすごい場所オーラ。そして、大学生から漂う意識の高さ。ここで確信する。自分は絶対東大に来ないだろう(学力的にも)と。だが、こんな貴重な経験が出来るのも、宮城の住民としては滅多にないこと。存分に刺激を受けさせていただきますよ。そして、訪れた教育学部。ここでは、実際に模擬授業を受けた。内容は、「勉強とは何か?」という、教育学において根源とも言える内容。勉学とは、自己満足の世界である。自分で学ぼうと思うことを学び、研究し、発見する。そして、それを他人に伝え、教えるのが教育であったり、学説だったりする。だから、嫌々やるのは本当の勉強とは言えない。かなり簡潔に記したが、このような内容だったと思う。あれっ...自分...本当の勉強してんのかこれ...怪しくなって参りました。そんなことは置いておいて、将来教育に携わる職に就こうと考える自分にとって、こういったお話は大いに刺激を受けるし、ためになる。本当の勉強というものを教えられる教育者になれたらいいなと考える今日このごろです。

この2日間の研修を通して、経験したこと、学んだことを作文にまとめようとしたら日が暮れるだろう。それくらい、今回の研修は素晴らしいものだったと思う。将来について真剣に考えようとももちろん思ったし、二高に入って1番衝撃を受けた、修学旅行がないという問題も、解決できるんじゃないかってくらい楽しかった。いや、修学旅行行きたいけどね?京都とか。先生、どうにかありません?この2日間の盛りだくさんのスケジュール

で受けた刺激を忘れず、今後に活かしていけたらとおもう。2度とこんな経験できないと何回も先生も言ってたが、まさにそのとおりだ。その経験が、将来につながる道になることを祈って。いや、道を作って。高校生活、充実させたい。